

令和元年度全国及び岡山県学力・学習状況調査 結果と今後の取組について【学校版：様式】

1 津山市重点取組

津山市立 北陵中学校

津山市重点課題	誰が(Who)	何を(What)	いつまでに(When)	どのように(How)	達成される児童・生徒像(数値目標)
学びのサイクル(津山モデル)授業改善と家庭学習をつなぐつまぎ解消	①各担任・教科担当者 ②2年生各担任・教科担当者 ③各教科担当者	①伸び棚(東書プリント)の活用 ②マネジメントファイル・班学習ノートの活用 ③教科教室(放課後補充教室)設置	①②③すべてにおいて、取組開始は1学期中数値目標の達成については年度末	①プリントの補充をし、活用方法を紹介することで利用率を高める。 ②宿題の自己管理、学習計画、学習時間の記録・輪番制の班学習ノートの取組を通して、家庭学習の習慣を付けていく。また、活用状況の分析を行い、成果を検証する。 ③まずは、社会科・理科・数学科から始める。その後、準備のできた教科を加え利用状況を分析しながら効果的な運用の仕方を検討していく。また、高校生を含む地域人材との協働も検討していく。	学校評価アンケート「宿題・課題は自分でやってみよう」として提出している」項目で全学年80%以上
生活習慣の改善 スマホ対策と家庭学習の充実(児童会・生徒会や家庭等)	①各担任 ②生徒指導担当、生徒会担当	①伸び棚や2年生のマネジメントファイルの活用についての保護者への啓発 ②スマホの利用についての生徒集会および保護者への啓発	①②ともに取組開始は1学期中数値目標の達成については年度末	①家庭訪問や三者懇談で伸び棚やマネジメントファイルの活用について周知を図り、家庭学習の習慣化について理解を促す。 ②生徒会主催の生徒集会でスマートフォンの使い方について問題提起をすることで、考える機会を設ける。また、三者懇談や学級PTA等でスマートフォンの使い方について議題にし、保護者にも啓発していく。	家庭学習の時間1日1時間以上の達成率、1年生75%、2年生78%、3年生70%以上

2 全国及び岡山県学力・学習状況調査 結果及び成果と課題

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)	
<p>【学力状況調査の結果】 全国(3年)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○国語は全国平均と比べると正答率は同程度。 封筒の書き方を理解して書く、本校63.1%(全国56.8%) 文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉える。本校56.7%(全国61.5%) ○数学は全国平均と比べると正答率が下回る。 グラフ上の2点のy座標の差を解釈することができる。本校40.2%(全国38.8%) 整理された表から最頻値を読み取る。本校56.7%(全国61.5%) ○英語は全国平均と比べると正答率がやや下回る。 文の中で適切に接続詞を用いることができる。本校97.1%(全国79.9%) 情報を正確に聞き取ることができる。本校45.6%(全国61.8%) ○英語(話すこと)については、全国平均を上回る。 与えられたテーマについて考えを整理し、まとまりのある内容を話すことができる。本校56.5%(全国45.8%) 絵を見て交通手段を答える。本校19.0%(全国25.7%) <p>県(2年)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○国語は書くことに関する問題で県平均を下回る。本校64.0%(県68.1%) 3段落構成で文章を書く。本校57.9%(県64.8%) ○数学は資料の活用に関する問題で県平均を大きく下回る。本校35.8%(県43.6%) 階級の幅について理解する。本校26.9%(県45.5%) ○英語は書くことに関する問題で県平均を下回る。本校42.7%(県48.4%) 疑問詞What+名詞を使った疑問文。本校8.3%(県35.1%) <p>県(1年)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○国語は書くことに関する問題で県平均を下回る。本校61.9%(県68.2%) 3段落構成で文章を書く。本校45.9%(県62.7%) ○数学は図形に関する問題で県平均を下回る。本校61.1%(県69.1%) 3角形の内角の大きさを求める。本校61.7%(県70.0%) 	<p>【学習状況調査の結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○家庭学習時間については、「1時間以上行っている」生徒の割合は全国平均と比べると低い。本校66.7%(全国69.8%) ○読書時間については、「1日に30分以上している」生徒の割合は全国平均と比べると低い。本校24.6%(全国27.0%) ○「自分にはよいところがある」と思っている生徒の割合は全国平均と比べると高い。本校75.0%(全国74.1%) ○「学級活動で、互いのよさを生かしてものごとをすすめている」と思っている生徒の割合は全国平均と比べるとかなり高い。本校82.3%(全国71.6%) ○「2時間以上スマホ等を使用している」生徒の割合は1、2年生ともに県平均と比べるとかなり高い。 2年:本校32.4%(県27.6%) 1年:本校24.0%(県20.7%) ○「2時間以上テレビを視聴している」生徒の割合は1、2年生ともに県平均と比べるとかなり高い。 2年:本校53.2%(県48.5%) 1年:本校56.1%(県49.7%) ○「今まで受けた授業でICTを使用した」と思っている生徒の割合は全国平均よりかなり高い。本校54.9%(全国30.6%) ○国語・数学・英語に対する興味・関心は低い。国語:本校59.8%(全国61.7%) 数学:本校53.5%(全国57.9%) 英語:本校52.9%(全国56.0%) また、必要性を感じている生徒の割合も低い。国語:本校86.8%(全国91.0%) 数学:本校82.4%(全国84.2%) 英語:本校81.4%(全国85.4%)

成果	課題
<ul style="list-style-type: none"> ○授業規律の徹底を目指し、「時間を守る」「服装を整える」「授業前後の挨拶をする」ことが継続して取り組んでいる。 ○校内研修が充実しており、教科指導の充実に向けた教科部会の定着が進んでいる。 ○普通教室・特別教室に、「本時の目標」「まとめ」などの授業プレートを設置し、どの授業でも目標(めあて)やまとめを示すことを全教職員で共通理解実践している。その結果、「授業で、本時の目標(めあて・ねらい)が示されている」と回答している生徒の割合は1、2年生ともに県平均を上回っている。2年:本校94.5%(県92.7%) 1年:本校94.4%(県93.6%) ○教師主導の講義型授業からの転換を図っている。「授業では、自分の考えを発表する機会を与えられている」と回答している生徒の割合は1、2年生ともに県平均を上回っている。2年:本校90.3%(県90.2%) 1年:本校92.8%(県91.3%) 3年生では、「生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる」と回答している生徒の割合は全国平均を上回っている。本校76.5%(全国72.8%) 	<ul style="list-style-type: none"> ○家庭学習の時間が少ない。 ○全国の学習状況調査から最後まで解答を書こうと努力することが苦手である。 ○全国の学力調査、県の学力調査ともに無回答率が高い。 ○授業前着席やチャイムスタートがほぼできているが、教師主導であり内容的に実行できていない。また、学習規律について掲示されているものの十分な可視化が図れていない可能性があり、一層の意識付けを図る工夫が必要である。 ○「先生が自分のよいところを認めてくれている」と思っている生徒の割合は高い。3年:本校84.8%(全国81.5%) 2年:本校87.0%(県88.9%) 1年:本校93.9%(県91.0%) しかし、「自分にはよいところがある」と思っている生徒の割合は同程度。3年:本校75.0%(全国74.1%) 2年:本校74.1%(県75.6%) 1年:本校81.7%(県80.7%) そこで、引き続き生徒のよいところを認め、勇気づける取り組みを行う必要がある。

3 今後の取組

何を(改善すべきこと)	いつまでに(成果検証の期限)	どこまで(対象と達成目標の設定)	どのように(方策)	達成状況(12月末現在)	達成度	達成状況(年度末)	達成度	次年度への改善点・重点課題
自己肯定感・自己有用感を高めることで、学習意欲の向上につなげる。	今年度末	全国学力・学習状況調査での「自分には良いところがある」の項目のスコア(75.0%)を基準とし、それより5ポイント以上上げる。	生徒のよいところを積極的に見つけ、誉めたり認めたり励ましたりする。(ボイスシャワー) 学級経営や学校行事の中で自己肯定感を高めるグループワークに取り組む。					
「スマートフォン(スマフォゲームを含む)の使用時間を2時間以内に作る。」	今年度末	2時間以上使用すると回答する生徒の割合を4.0%以下(令和元年度 津山市の目標値以下)にする。	テストの学習計画にスマートフォンの使用に関する項目を追加するとともに、定期的にも声掛けを行う。また、情報モラル・情報リテラシーの授業を行うとともに、警察の協力を得て講演するなど、啓発を行う。					
家庭学習の定着と充実	今年度末	家庭学習を1日当たり、1時間以上する生徒の割合を1年生75%、2年生78%、3年生70%以上に上げる。	自主学習ノートの好事例の貼り出しを行うなど、手本を示す。 「伸び棚」の利用促進を狙い、長期休み前に紹介・三者懇談や学年PTAで保護者に紹介・HPで紹介・自己診断テストと関連させることを行う。課題把握や学習時間を意識させるためマネジメントファイルを使う。					

※達成度 「S:目標を大きく上回った(100%超)」 「A:目標を十分達成できた(85%以上100%未満)」 「B:目標を概ね達成できた(70%以上85%未満)」 「C:目標をある程度達成できた(50%以上70%未満)」 「D:目標をあまり達成できなかった(30%以上50%未満)」 「E:目標を達成できなかった(30%未満)」

小中連携の取組	保護者・地域へ理解・協力を求めること
<ul style="list-style-type: none"> ○津山モデル学区として歩調をそろえてPDCAを循環させる。 ○中学校区の小中の生徒指導の会、教務主任の会を開催して、情報交換を実施するとともに学習環境の向上と学力向上を図る。 ○中1キャッチの解消に資する小中教職員の交流や研修の機会を設けて、生徒・児童の情報交換を実施、情報を共有する。 ○小中連携の日を設け小中でそれぞれで授業公開を行い、授業や学習内容の研修を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域に学校を公開する日を設けるとともに、学校を支援してもらえよう取り組む。 ○生徒会やPTAと協力し、生活習慣(就寝・起床時間)の確立を目指すとともに、スマートフォン使用の家庭の約束を確認し啓発を図る。 ○人権について、学校・生徒会・PTAと協力して取り組み、安心できる学校づくりを目指す。 ○家庭学習については、便りや啓発したり、懇談で個別に指導をしたりする。